

平成 24 年 12 月 10 日

電気化学会北陸支部創立 50 周年記念大会記録

電気化学会北陸支部

日時： 11 月 8 日（木）～9 日（金）

場所： 宇奈月温泉延対寺荘（〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 53）<http://www.entaiji.com/>

（第一部のみ）宇奈月国際会館セレネ

（大会の写真は <http://kohka.ch.t.kanazawa-u.ac.jp/lab2/hokurikudenka50/>にてご覧いただけます。）

11 月 8 日、9 日両日にわたり、富山地区宇奈月温泉にて北陸支部創立 50 周年記念大会を開催した。50 周年という節目であることから、これまで支部を支えて下さった常議員、役員の方に加え、本会会長松岡先生、石渡事務局長並びに北陸支部に関係の深い元会長伊藤東様、副会長賀来敏様、更には電気化学会他支部の代表者をお招きしての盛大な会となった。当日は支部 50 周年を祝うかのように、時折の晴れ間のおかげで宇奈月温泉の美しい紅葉を楽しみながらの開催となった。

第 1 日・8 日（木）

<第一部 北陸支部 50 周年を振り返って>（14：00～17：30 参加者 65 名）

富山大学篠原先生司会のもとで、定刻通り開催した。高橋支部長からの開会挨拶ではじまり、引き続き本会会長である東京農工大 松岡英明先生、本会元会長である電気化学工業(株)特別顧問 伊藤 東様、本会副会長 日本曹達(株)代表取締役専務 賀来 敏様、本会事務局長 石渡佐敏様の 4 名よりお祝辞をいただいた。

本題の北陸支部 50 周年を振り返りについては高橋支部長より、支部創立の経緯から現在に至るまでの 50 年間の歩みをまとめた配布資料とスライドより説明を行った。北陸支部は他の支部と比較すれば構成員 100 名程度という小さな組織であり、かつ支部設立から現在まで大幅に支部会員が増加しているわけでもないが、長きにわたり春季大会や秋季大会、見学会などを毎年欠かさず実施している。このような活動の歴史を振り返れば、本支部は常議員幹事企業の皆様と大学高専関係者の皆様の良好な協力体制の証ともいえるであろう。

ついで、支部を支えていただいた皆様に対して感謝状贈呈式を行った。従来から内規により支部功労者を表彰してきたが、今回 50 年という節目を迎えるにあたり、支部に欠かせない方々へ今一度、感謝の意を表するために特別功労賞を設けることとした。特別表彰の選考基準は常議員 25 年以上継続の団体、幹事在任 20 年以上としたが、支部活動支援に特に功績のあった本会事務局長石渡様も今回特別功労賞として感謝状を贈呈した。選考にあたっては、現在の活動状況からの判断であり、既に退会された常議員各位は対象からはずしていることはご容赦願いたい。受賞者を以下に記す。

電気化学会北陸支部功労者 特別功労者（アイウエオ順）

支部功労賞（個人）

宇野 清文 様（三協立山株式会社三協アルミ社技術部 支部幹事）
梅田 実 様（長岡技術科学大学 前支部長、現顧問）
太田 雅壽 様（元新潟大学 元支部幹事）
尾田 一雄 様（日本曹達株式会社、元支部総務幹事）
杉本 義昭 様（元日本曹達株式会社、元支部幹事）

舘川 憲雄 様（電気化学工業株式会社青海工場 支部幹事）
民谷 栄一 様（元北陸先端科学技術大学院大学、現大阪大学、元支部幹事）
平下 裕治 様（日本曹達株式会社、元支部長）

支部功労賞（企業）

沖プリントドサーキット株式会社 様
株式会社田中化学研究所 様

特別功労賞（個人）

池田 修 様（元金沢大学 元支部長、現顧問）
石渡 佐敏 様（電気化学会事務局長）
山田 明文 様（元長岡技術科学大学、元支部長、現顧問）
蓮覚寺 聖一 様（元富山大学 元支部長、現顧問）

特別功労賞（企業）

清川メッキ工業株式会社 様
三協立山株式会社三協アルミ社技術部 様
中央電気工業株式会社妙高工場 様
電気化学工業株式会社青海工場 様
日本曹達株式会社高岡工場 様
日本曹達株式会社二本木工場 様
日本電工株式会社電池材料事業部 様

感謝状贈呈の後、休憩をはさんで特別功労賞受賞の本支部顧問、山田明文先生、蓮覚寺聖一先生、池田修先生よりご講演いただいた。山田先生からは「本造酒四十余年～果実酒造りへの挑戦～」と題してご趣味のお話をいただいた。果実酒の奥深さを判りやすく説明いただいたおかげで梅酒程度しか発想のない者にとっては果実酒に対する見方が変わったかもしれない。蓮覚寺先生からは「北陸支部に感謝したこと」と題して、先生のこれまでの経験を通して、特許や論文などに対する企業の考え方、大学の考え方の違いについてお話しいただいた。池田先生からは「日々雑感」と題して最近気になった〇〇神話、電気化学会北陸支部 50 周年の話をいただいたが、メディアを賑わす〇〇神話を造り上げる思い込みの恐ろしさは、科学（化学）を携わる者として充分肝に銘じておくべきことであることを再認識した。予定より少々時間が超過したが、第一部の締めくくりに全体で記念撮影を行い、国際会館セレネを後に、宿泊先である延対寺荘へとバスで向かった。

<懇親会>（18：30～21：00 参加者 44 名）

延対寺荘での懇親会は参加者の方の入浴等の時間も考慮し、30分遅れの18時30分より開催した。ほとんどの方がスーツから浴衣に着替え、第一部とは一転して非常にリラックスした雰囲気となった。本会会長松岡先生に再びお言葉をいただいた後、支部幹事三協立山（株）三協アルミ社宇野清文様より乾杯のご発声をいただき、開宴となった。第一部でご講演いただいた山田先生からは数十種にわたる果実酒を、日本曹達（株）様からは二本木工場よりワイン、高岡工場より日本酒をご提供いただいた。また、松岡会長、石渡事務局長から日本酒、焼酎、山内先生（新潟大）から日本酒を頂戴し、飲みきれるかと思うほどのお酒が並ぶ中、おいしいお食事をいただいていた懇親会となった。二本木工場提供のワインについての説明が、日本曹達（株）取締役 樋口治雄様（二本木工場長）より直々にあった。また、山田先生に提供いただいた果実酒の廻りでは、1本1本に対して山田先生から説明をいただきながらの試飲となり、大いに話が盛り上がっていた。会の途中では、懇親会から出席された大阪大学 民谷栄一先生に対して、功労者

表彰を行った。参加した皆様の会話がはずむ中、第二部が控えていることもあり、一旦中締めとして、支部顧問 長岡技術科学大学の梅田実先生にご挨拶をいただき、第二部会場へと移動した。

<第二部 北陸支部の学会活動の紹介> (21:00~24:30 参加者 44名)

第二部は富山大学阿部先生の司会のもと、北陸支部および各支部の学会活動紹介を行った。既にお酒も充分いただいていたものの、引き続き呑みながらの会となった。北陸支部の活動紹介に先立ち、各支部から支部活動とその特長について話をいただいた。北海道支部より北海道大学 大谷文章支部長、東北支部より山形大学 仁科辰夫支部長、関東支部より山梨大学 柴田正実副支部長、東海支部より静岡大学 前田康久支部長、関西支部よりシャープ(株)見立武仁副支部長の5名の方から、それぞれ支部の特長や行事、歴史などを判りやすく紹介いただいた。各支部それぞれに支部構成員の構成割合(企業、大学等)に応じて工夫を凝らした行事があり、今後北陸支部として参考にすべき情報も大いに含まれていた。大谷北海道支部長より、各支部との連携には本会を通しての連絡だけでなく、支部間で勝手に声掛けしても面白いのではないかと提案もあり、支部間での連携に対して、今後いろいろな方法を模索すべきと思われる。引き続きメインの北陸支部の活動紹介へと移った。最初に長岡技術科学大学松原先生より、「**「こんなことがわからない」から「わかってんのかい」まで**」と題し、北陸支部の役割を3点に絞って説明を行った。北陸支部の自慢は、前田東海支部長にもお褒めの言葉をいただいたが、支部内企業の方と共に支部行事を運営していることであり、各行事において、大学高専の教育機関のみに閉鎖することなく、企業の方も参加する価値がある企画を取り入れようとしている点である。具体例として夜なべ談義をとりあげたが、産から学の距離をより縮める方法の模索として酒の力を借りるという方法はやはり北陸支部ならではのかもしれない。全国大会(本部)にはかなわないことを支部活動として求めず、全国大会(本部)では企画しにくいことを支部活動で追求するという発想は非常に重要なことと思われた。ついで富山大学阿部先生の発案で最近支部春季大会の目玉行事として活発に行われている「若手の会(わかってんのかい)」の紹介があった。仁科東北支部長より本家「若手の会(わかってんのかい)」の歴史は既に説明いただいていたが、ここでは実際に信州大学杉本渉先生を特別講師になっていただき、北陸支部「若手の会(わかってんのかい)」の実演とした。杉本先生からは「**RuO₂ ナノシートの燃料電池触媒とスーパーキャパシタへの展開**」という演題でお話いただいた。講師の先生が素晴らしかったこともあり、通常の若手の会より穏やかな会となったが、それでも深夜まで白熱した議論を展開することとなり、北陸支部の活発な状況の一端を紹介する良い事例であったことはいうまでもない。少々長丁場で参加者の方もちらほら疲れが見え始めてきたので、第二部を終了したが、白熱した議論は留まることを知らず、番外編の三次会として更に小グループごとに深夜まで議論し、親睦を深めた。(松岡本会会長も午前2時近くまでお付き合いいただいたそうです。)

第2日・9日(金)

<第三部 北陸支部での研究活動および企業活動紹介> (9:30~11:30 参加者 41名)

第三部は富山大学 鈴木正康先生の司会のもと、大学高専関係の研究講演として、北陸地区4県から一人ずつの発表と、北陸支部常議員企業から3件の会社事業所説明を行った。帰りの交通事情を考慮して、当初予定より終了時刻を30分早めたため、講演者それぞれに対しての質疑応答を行わず、最後に一括して質問を受け付ける形式をとった。新潟地区を代表として梅田顧問から「**固体高分子形燃料電池と直接メタノール形燃料電池：長岡技科大の取り組み**」をはじめとして、富山地区より篠原先生が「**生物電気化学で地域、社会に貢献する！～健康維持・創薬に役立つバイオセンサの研究開発～**」、石川地区より桑原先

生が「金沢大学における有機薄膜太陽電池開発の取り組み」、福井地区より米沢先生が「電池材料開発を中心とした福井地域の産学官連携によるグリーンイノベーションへの取り組み」の講演題目で講演を行った。ついで常議員企業より、電気化学工業 舘川様から電気化学工業株式会社青海工場の概要説明、三協立山株式会社三協アルミ社 宇野様より三協立山株式会社の事業紹介、日本曹達株式会社 小野様からは日本曹達株式会社高岡工場の事業～ソーダ電解から広がる製品群について～の講演を行った。1時間半の7件連続の発表であったが、講演者の皆様それぞれに、特色をよく現した内容の講演は、聴衆側に全く前日の疲れを感じさせることなく、北陸支部の活力を伝えることができたと思われる。また、電気化学工業 舘川様の講演時には、電気化学工業青海工場が来春の支部春季大会での工場見学会となっていることに絡め、参加者に対して、支部春季大会へのお誘いをさせていただいた。最後に次期支部長 富山大学 篠原寛明先生からの閉会の挨拶で記念大会の幕を閉じた。全日程を盛会裏に終え、参加者はそれぞれの帰路についた。二日目は天気にも恵まれて、数名の方はきれいな紅葉の温泉街を散策するなど、今回の記念大会を充分にご堪能いただいたようであった。

以上